

No.J2216

国際会議 “Sects and Sectarianism in Chinese Islam”

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 講師
海野 典子

近年、中国の宗教統制やイスラーム系民族の人権問題が国際的関心を集めている。しかし、中国ムスリムの多様性、特に教派の違いに由来するムスリム同士の複雑な関係性については、専門家の間でさえ理解が進んでいるとは言い難い。

本企画「Sects and Sectarianism in Chinese Islam」は、中国イスラームの各教派の歴史・現状・相互関係に焦点を当てた、世界初の国際会議である。2023年1月21～22日に2日間の会議を早稲田大学、及びその近隣の貸会議室で開催した。歴史学・人類学・政治学・宗教学・社会学・文学・民族音楽学といった、多様な学問的背景を有した研究者十数名が日本国内外から集まり、各教派の思想、地域社会や政治権力との関わり、異教派間の関係（対立・協力・融合・分裂）、国際的なイスラーム潮流との連動などについて活発な議論を交わした。特に、イスラームを信仰する少数民族の中でも、漢語を日常的に話す回族、及び新疆ウイグル自治区に暮らすテュルク系諸民族（ウイグル人など）の教派の実態に注目した。

2日間の会議期間中、計10名の登壇者が最新の研究成果を報告し、ディスカッションや会場参加者との質疑応答を行った。実証研究を踏まえた上で、教派主義という枠組みの有効性や、宗教研究における理論構築の意義について、多角的に検討することができた。研究対象や専門分野が細分化されてきた過去の中国イスラーム研究の動向を考えると、中国ムスリムの多様性、特に教派の違いに由来するムスリム同士の複雑な関係性に着目した本企画は、画期的であると言えるだろう。

現在は、会議の成果をまとめて、英語圏の学術雑誌に特集号として投稿すべく準備を進めている。また、会議開催前に複数回実施したオンライン研究会事前に研究論文を読んでその内容を議論する）も、継続している。本企画の研究成果を広く発信することによって、中国の宗教・民族問題に対する理解を深化させることが期待される。